

平成26年度大磯町教育委員会第1回定例会会議録

1. 日 時 平成26年4月17日（木）
開会時間 午前9時00分
閉会時間 午前10時00分
2. 場 所 大磯町役場 4階第1会議室
3. 出席者 青 山 啓 子 委員長
中 野 泉 委員長職務代理者
曾 田 成 則 委員
濱 名 三代子 委員
藤 家 崇 教育長
相 田 輝 幸 教育部長
岩 本 清 嗣 学校教育課長
小 島 昇 学校教育課副課長
瀬 戸 克 彦 子育て支援課長
佐 川 和 裕 生涯学習課長兼図書館長
國 見 徹 生涯学習課郷土資料館長
谷 河 かおり 学校教育課教育総務係長
4. 傍聴者 5名
5. 前回会議録等の承認
6. 教育長報告
7. 報告事項
報告事項第1号 平成25年度大磯町立中学校の生徒進路状況について
報告事項第2号 平成26年度学級編制及び教職員の配置状況について
報告事項第3号 第3回大磯町子ども・子育て会議について
報告事項第4号 大磯町青少年指導員の委嘱について
報告事項第5号 企画展「収蔵動物標本展」の開催について
報告事項第6号 春季企画展「きらびやかな雛人形の世界」の実施結果について
8. その他

(開 会)

出席委員が5名で定足数に達しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により定例会は成立し、大磯町教育委員会会議規則第14条及び第19条の規定により傍聴を許可します。暫時休憩ののち傍聴人が入室し再開した。

(前回会議録等の承認)

委員長より前回会議録の項目を読み上げ、出席委員全員の承認を得る。

教育長報告

教育長) 私からは、3月定例会開催後の平成26年3月25日から本日までの教育委員会諸行事等について報告させていただきます。3月28日、大磯町スポーツ表彰式が開催され、大磯中学校の河崎真理菜さんが体操競技において、桑原海夕さんがダンス競技において、共に国際大会を含む輝かしい活躍により表彰されました。3月29日、第1回被災地訪問体験学習を開催し、中学生12人が参加し、夏休みの被災地訪問の準備学習を実施しました。3月31日、辞令交付式を挙行し、教職員8名、町職員3名に退職辞令を交付しました。4月1日、平成26年度辞令交付式を挙行し、新採用教員9名を含む55名の職員等に辞令を交付いたしました。4月5日から9日にかけて、町立幼稚園・保育園、小・中学校、分校において、入園式・入学式が開催されました。退職者への辞令交付式から入園・入学式にかけて、教育委員の皆様には、ご出席いただきありがとうございました。今年度の幼稚園、保育園、小・中学校の入園、入学状況等の詳細につきましては、後ほど事務局よりご報告いたします。4月8日、春の交通安全運動・街頭見守りを実施し、町内各所において地域のボランティアの方々をはじめ、議員、職員が、通学する児童・生徒の安全見守りを行いました。4月9日、神奈川県市町村教育委員連合会総会が横須賀市役所で開催され、委員長に出席をいただきました。その他の諸行事につきましては執行状況表のとおりです。また、今後の予定につきましては、執行予定表をご参照ください。

報告事項第1号 平成25年度大磯町立中学校の生徒進路状況について

学校教育課副課長) 資料の裏面をご覧ください。まず、大磯、国府及び生沢分校の中学3年生289名の進路先の状況ですが、1の表のとおり289名中284名が進学しております。高い進学率は変わらず、平成25年度は約98%となっています。進学しなかった生徒は5名で、角界に入門した1名は、就職・家事手伝い等の欄に計上しています。そのほか、生沢分校の3名が就職しています。未定が1名となっていますが、一昨日の最終確認で、生沢分校、おおいそ学園を退所し就職が決まったという報告を受けました。資料は4月9日段階のもので、4月17日現在では就職が5名ということになります。次に2をご覧ください。全日制高等学校への進学、公立と私立の割合は、公立高校への進学率が73.4%、私立高校への進学率が26.6%であり、平成24年度よりも若干公立進学率が高くなっております。なお、公立高等学校が第1希望で私立高等学校を併願した生徒の割合は約85%で、平成24年度と大きな違いはありませんでした。次に、3の全日制進学における入試選抜別合格者状況についてご説明いたします。公立の普通科、専門・総合学科に記載しました割合は、母数を全生徒数としたものです。わずかずつではあります

が、専門・総合学科を選択する生徒が増加傾向にあります。最後に、旧平塚学区とそれ以外での進学状況について、4をご覧ください。139名の公立高校全日制普通科進学者の中で81名が旧平塚学区以外へ進学しております。これは全体の約58.3%で、こちらも少しずつ増加の傾向があるようです。以上でございます。

質疑応答)

中野委員) 今、私立高校との併願は85%と聞きましたが、実際、専願と併願の人数は何人でしょうか。聞くとところによると、大体公立を第1希望にしている生徒は私立を併願していて、85%というのは少ないような気がしましたが、いかがでしょうか。

学校教育課副課長) 公立高等学校が第1希望の生徒の併願の状況ですが、85%というのは、公立高等学校受験者数226名のうち192名です。ですから、専願は34名ということになります。

中野委員) ありがとうございます。

濱名委員) 地域性かと思えますか、私が生まれ育ったところだと、私立を希望する親子が非常に多いです。こちらでは公立希望が多いのですか。

学校教育課副課長) 年度によりやはり若干の変動はありますが、大体70%が平均で、少ないときで60、高いときで80ぐらいの幅で推移しています。

濱名委員) そうですか。高いなと思いました。

曾田委員) よろしいですか。先ほど就職・家事手伝いが5ということになりましたけれども、家事手伝いはわかりますが、就職というのはどういう方面での仕事に就かれたか、その辺把握はされていたら教えてください。

学校教育課副課長) 就職先としましては、建設業、内装業、あとエクステリアとなっていますので、そういった建築関係が多くなっています。

曾田委員) ありがとうございます。

委員長) 毎年この時期になると、この状況についての報告をいただいています。やはり4月になって新しい3年生が進路に向けて、受験なり就職なりスタートしているので、それぞれのご家庭や子どもたちの進路の希望が叶うように、学校も十分に学習面なり、あるいは生活面でサポートしてもらいたいと思います。始まったばかりのころは、なかなか皆さん実感がないと思いますが、進学する学年になると、本人もまたご家庭も非常に気を使う1年になると思いますので、それを十分考慮して、学校でもそれに対して十分にサポートあるいは指導していただきたいと思います。ぜひ学校にもお伝えいただければと思います。

報告事項第2号 平成26年度学級編制及び教職員の配置状況について

学校教育課長) 1ページの小・中学校についてです。平成26年4月7日現在、児童、生徒数・普通学級数の前年度比較の表をご覧ください。はじめに、小学校でございますが、大磯小学校では、児童数は前年度より18名の増でございます。小学校1年生は、35人以下学級編制になっております。今年度2年生については、法改正は今年度もなされなかったものの、昨年度に引き続き、35人以

下学級としています。学級数では、1年生が1学級の増、2年生は1学級の減で合計では25学級で増減はありません。次に国府小学校では、児童数は昨年度より16名の増でございます。5年生が1学級の減、6年生が1学級の増となり、合計では23学級で増減はありません。国府小学校分校は、今年度のスタート時点では児童がゼロとなっております。続いて下段の中学校についてです。大磯中学校は、生徒数は27名の減で、学級数は3年生1学級の減です。国府中学校につきましては、生徒数は前年度より18名の減で、学級数は1年生と3年生がそれぞれ1学級減、2年生は1学級の増、合計では1学級の減です。国府中学校分校は、生徒数は合計で3名の減で、学級数の増減はありません。次に右下の特別支援学級の児童生徒数に移りますが、恐れ入ります。平成26年4月5日現在となっておりますが、児童、生徒数同様、4月7日現在の誤りです。訂正をお願いします。表の内容ですが、小・中学校合計で43名、前年度と同数、学級数も11で同数となっております。次のページの幼稚園については子育て支援課長が説明します。

子育て支援課長) 引き続き、報告させていただきます。まず、幼稚園ですが、大磯幼稚園の園児数は、平成25年度が167名、平成26年度が154名で13名の減となっております。クラス数は、年少の園児数が50名を超えるため3クラスとなり、合計で7クラスとなります。職員数は、園長1名、教頭1名、一般教諭7名のうち2名が臨任教諭となっており、その他に園務整備員1名と教育支援員6名。教育支援員については、年少組の補助が3名、その他に支援が必要な園児への加配分として3名。の計16名の体制となっております。次に、国府幼稚園の園児数は、平成25年度が80名、平成26年度は77名で3名の減となっております。クラス数は、年少児が25名に満たないため1クラスに変更になったため全学年、1クラスで、合計で3クラスとなります。職員の配置は、園長が大磯幼稚園との兼務で1名、教頭1名、一般教諭3名、うち1名が臨任教諭です。その他に園務整備員1名、教育支援員3名。年少の補助1名の加配分2名。計8名の体制となっております。次に、たかとり幼稚園の園児数は、平成25年度が126名で、平成26年度は、125名で1名の減となっております。クラス数は、年少、年中、年長ともに2クラスで、合計6クラスとなり昨年と変更はありません。職員数は、園長が1名、教頭が1名、一般教諭が6名のうち1名が臨任教諭となっており、その他に園務整備員1名と教育支援員7名。年少の補助2名、加配分が5名。の計16名の体制です。3園の合計園児数は、平成25年度が、373名、平成26年度356名で17名の減となっております。クラス数は、年少が6クラス、年中及び年長は、各5クラスで、国府幼稚園の年少が減った分1クラスの減となりました。職員数は、園長が2名、教頭が3名、一般教諭が16名で、うち2名は新採用職員で、4名が臨任教諭です。その他に園務整備員が3名と、教育支援員が16名となっており、教育支援員は昨年より4名の増となっております。次に保育園ですが、平成25年度が合計で97名、平成26年度が98名ということで、1名の

増となっております。また、クラス数は0歳児～5歳児まで各1クラスの合計6クラスです。職員の体制は、園長がたかとり幼稚園と兼務で、園長補佐が1名、一般保育士が24名で、うち16名が臨任保育士となっております。また、給食調理員が6名で、うち1名が任期付き給食調理員、4名が臨任給食調理員で、その他に園務整備員が2名の体制となっております。

学校教育課長) つづいて、3ページをご覧ください。平成26年度大磯町立小中学校教職員配置状況についてです。教職員数については、児童・生徒数に応じて学級数が決まり、その学級数に応じて規定の教職員が配置されます。また、規定外として、それぞれの学校に数名の教職員が配置され、表のような教職員数となっております。表のように、教職員数は、小学校では合計84名で昨年度比2名減。国府小学校生沢分校に児童が不在のため教員2名が減となっております。中学校では72名で昨年度比2名増となっております。

質疑応答)

濱名委員) まず、国府小学校の去年の4年生が30名のところが、今年になって5年生に上がりまして、3クラスの1クラス40名になったところを昨日、授業参観日だったの見てきました。どのクラスも非常に落ちついていて、保護者の動揺はありましたが、多いなあとか、体が大きくなっているのに大丈夫かというのではありませんが、担任の先生方がそれぞれ積極的な授業を展開されていて、4年生のときよりも落ちついて、よくなったのではないかなという印象を受けました。それと、質問ですが、幼稚園のことで、まず一般教諭の中の臨任というのはどういうことですか。

子育て支援課長) 臨時職員になります。フルタイムの臨時職員の先生という形になります。

濱名委員) 一般教諭と臨任はどういう違いがあるんですか。

子育て支援課長) 正規職員と臨時職員の違いです。

濱名委員) 時間に違いがあるとか、待遇に違いがあるとか。

子育て支援課長) 勤務時間等は正規職員と同様ですけれども、雇用形態が違います。

濱名委員) 待遇が違うわけですね。

子育て支援課長) はい、待遇が違います。

濱名委員) 教育支援員の数がすごく多いと感じましたが、臨任を外せば正規よりも多い気がして、どうなのでしょう。

子育て支援課長) 支援員につきましては、幼稚園で面接を実施した中で、支援が必要なお子さんをスクリーニングしていただきまして、子育て支援課で検討して必要な子に配置するという形をとっていますので、多少なり前年と増減が生じています。

濱名委員) 教育支援の方は、職員会議などには出席されないのですか。

子育て支援課長) そこまではわかりませんが、必要に応じて出ていると思います。

ただ、支援員ですので、教諭とは違いますので、あくまでも教諭の補助をするような形になります。

中野委員) 私も、国府小学校の5年生40名というのは断トツに多くて、少し心配を持ちましたが、今、濱名委員のお話を伺って、落ちついているようであれば、

進級までこの人数で問題なく過ごしていただければと思いました。それから、多いクラスというと、大磯小の6年生37名と、国府中の3年生37名が若干多いと。タイミング的に6年生とか中学3年生とかという大事な時期に、この人数で大丈夫なのかなという不安はありますが、職員の皆さん、協力し合っ
てぜひ問題なく過ごしていただければと思えます。

委員長) 3ページの最後のページのところで、教員数なんですけれども、総括教諭のところを教えてください。例えば国府小と大磯小学校は教員数が磯小は37名、国小は32名で、磯小のほうが多いのですが、総括教諭は逆に磯小のほうが少なくなっていますね。中学校のほうでも同じように教員数は多いけど、総括教諭は磯中が少ないとなっているのですけれども、これは単純に考えると、教員のトータルの数が多ければ、総括教諭もそれに比例していくのかなと考えたんですけども、これはどういうことなのか。学校のほうとの話し合いとか、そういうのもあってこの数字が出ていると思えますが、その辺ちょっと説明してもらえますか。

学校教育課長) 中学校については、昨年もそういうご質問が多分あったと思えます。中学校については、総括教諭というのは県のほうで配置され、11名ということで昨年も配置されているんですが、通常、生徒数、学級数に応じてというのが基本だと思います。県の配置によって11名ということで、一番最初にはそれを話し合った上で、学校の研究部会等もありますので、その部ごとに決めたというのが中学校の例です。話し合っ
て決めたと言うことです。小学校ですが、先ほど申しあげました国府小学校の生沢分校で、近年では初めてですが、年度当初に児童がいないという事態が生じまして、それでいろいろ話し合っ
まして、県の判断としては、児童がいない状況で教員を配置できないということ
を言われまして、そうしますと分校配置の職員を国府小学校の本校に配置せざるを得ないということで、当初は予定としては国府小学校生沢分校に総括教諭の方を1名配置予定だったんですけど、4月7日現在では本校扱いというところで国府小が1名多いと。ですから、国府小学校の生沢分校に児童が転入してきた場合には、生沢分校に配置されるという予定となっ
て、少しイレギュラーな状態になっています。

委員長) わかりました。国府小・中は分校と一緒になっていますので、普段と違うイレギュラーなことがあったということが理解できました。

報告事項第3号 第3回大磯町子ども・子育て会議について

子育て支援課長) 報告いたします。当日は、委員の方2名が欠席されましたので、12名の委員により、開催されました。また、傍聴者は、4名で、その他にニーズ調査の委託先になります株式会社地域環境計画の方にも出席いただきました。会議につきましては、昨年の10月末から11月中旬にかけて実施いたしました大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ調査の結果報告を中心に行いました。議題の1点目は、(1)ニーズ調査、未就学児用の結果報告については、この調査の委託先になります株式会社地域環境計画の方に調査結果についてご説明いただきました。調査結果について、

ポイントとなる保育ニーズの部分をご説明いたしますと、大磯町では、保護者の方が共働きで就労している家庭が約 30%程度で、保護者のうちどちらかが就労していない保護者が、約 60%程度になっております。ただし、就労していない保護者、母親の約 70%が就労を希望している状況です。実際の幼稚園・保育園などの利用状況は、約 55%の方が利用しており、その内約 65%が幼稚園、約 30%が保育園、0.5%が認定こども園となっていました。また、幼稚園・保育園を利用している方の約 20%が町外の施設を利用している状況です。利用の意向としては、保育時間の長時間化を求める傾向にあると思われまます。また、幼稚園の長期休業期間中の預かり保育や、病児・病後児保育などの希望も多く出ています。今後、この調査結果を基に子ども・子育て支援事業計画の策定を進めていく予定です。議題の 2 点目は、(2) 教育・保育提供区域の設定について、ご審議いただきました。教育・保育提供区域とは、市町村が、地理的条件、人口、交通事情その他社会的条件、教育・保育を提供するための施設の整備の状況その他の条件を総合的に勘案して定める区域、子ども・子育て支援法第 61 条第 2 項第 1 号となっており、今後策定する事業計画の中では、設定した区域ごとに、需要の指標となる量の見込みと供給の指標となる確保方策のバランスを見ていくとされています。要するに、設定した区域ごとに、ニーズ調査の結果に基づくニーズに対する支援策を作ること。今回、町では、学校区をひとつの区域とする 2 区域の設定と、大磯町を一つの区域とする 1 区域の設定を提案させていただきました。ご審議いただいた結果、大磯町をひとつの区域とする 1 区域の設定で計画を策定していくことになりました。議題の 3 つ目のその他として、ニーズ調査小学生用の回収結果の報告と、今後のスケジュール、委員及び事務局職員の交代について、その旨報告しております。第 3 回大磯町子ども・子育て会議についての報告は、以上となります。

質疑応答)

濱名委員) 実際には幼稚園にお子さんを預けて働いていらっしゃるお母さんというのは、大磯の中で働いていらっしゃいますか。

子育て支援課長) 今回のニーズ調査のほうでは、そのような調査項目がなかったので、今現状のほうをお話ししますと、必ずしも大磯の町内で働いているという形ではないです。逆に、町外で働いている保護者の方のほうが多いのではないかと思います。

濱名委員) 大磯の中で働くのは少し難しいかと、働く場所も余りなさそうな感じがしました。あと幼稚園の預かり保育というのがありますが、それは曜日がちゃんと確定されていますか。ばらばらなですか。

子育て支援課長) 曜日につきましては、基本的には、原則ですけれども確定する方向で実施していますが、幼稚園の行事等によって多少ずれているときもありますし、お休みになる場合もあります。

濱名委員) 働く側としたら、曜日がばらばらになってしまったりとか、確定されていないというのは、一步踏み込めない状況だと思います。

子育て支援課長) 平成26年度、今年度につきましては、大磯、国府の幼稚園につきましては、火曜日、金曜日で確定しています。たかとりについては火曜日、木曜日ということで、週2回で確定しています。ただし、先ほど言いましたとおり、幼稚園の行事等によって多少ずれる。また、小学校の授業参観等に合わせて変更することもあります。

濱名委員) ありがとうございます。

委員長) この分厚い資料、完璧には見ていないのですけれども、少し本題から外れますが、中のページの要望、苦情などが書かれていた中に、アンケートが非常に長いというのがありました。本当にこのアンケートに対してお答えくださった町民の皆様には感謝申し上げたいと思います。細かく見ていかないと答えられないアンケートであったと思いますが、ここでお答えいただいた内容というのは、今後の子育て支援の事業計画をつくるに当たっては大変重要な資料になるものなので、お答えいただいた皆様に感謝申し上げたいと思います。中を見ていますと、しっかりと支援がなくても育てていけるご家庭もあると思いますが、中には、少数派ではありますが、ひとり親で子育てにいろいろ悩みや問題を抱えているという数字も見えています。やはり少数派の皆さんの要望にも応えられるような支援の作成というのを期待したいと思います。

中野委員) アンケートの内容について質問していいのかわからなかったもので、少し質問が遅くなりましてすみません。このアンケートの内容につきまして、

今、委員長がおっしゃったように、これだけのアンケートに答えていただいて、多分すごくお忙しいのに大変だったと思います。回収率60%と多いのか少ないのかわかりませんが、本当にお答えいただいた方には感謝申し上げますとともに、ぜひこういった苦勞されただけの報酬と申しますか、フィードバックをかけなければいけないという責任も感じました。細かいことで、町に関することはいろいろありますが、私がフルタイムの仕事をやめてまだ10年たっていないんですけども、そのころと全く同じで、制度があっても利用できないとか、一時会社を休んでしまったらもう復帰できない雰囲気があるとか、全く変わっていないなど、非常に残念だなと思いました。その辺は国にお願いしなければいけない部分ですが、これは神奈川県に準じて町としてアンケートを出して、町としてどうするかという結果を出さなければいけないものですか。

子育て支援課長) まず、こちらのニーズ調査につきましては、基本的な項目は国の調査項目に沿って行っています。国への報告もありますし、このニーズ調査の具体的なニーズに対して町の支援策を定めていくのが、このあと策定する支援事業事業計画になります。アンケートの回収率が60%というのは、非常に高い数字になっております。また、940人の方にご回答いただいておりますので、できれば広報等で概略だけでもご報告ができればと考えております。

中野委員) ありがとうございます。国にも上がるということでしたら、ぜひこの状況を知らせていただきたいというのと、やはり先ほど申しましたが、これだけ苦勞して答えてくださった方々に対して、町ができることにつきましては極力努力したいと思いました。

報告事項第4号 大磯町青少年指導員の委嘱について

生涯学習課長) 報告事項第4号 大磯町青少年指導員の委嘱について説明をいたします。裏面をご覧ください。大磯町青少年指導員は青少年の健全な育成に資する取組みを行ない、地域における活動への青少年の参加を促進するとともに、社会教育指導者層の充実を視野に入れて設置されております。大磯町青少年指導員設置規則により、青少年指導員の任期は2年、定数は18名以内としておりますが、現状の構成人数は12名としております。このたび、平成26年3月31日をもちまして、1期2年の任期が満了し、構成員12名のうち5名が退任をされることになりました。3月の事務連絡調整会議の席上におきましても、任期満了を迎えることと、新任を含む新たな委員委嘱の調整を進めている経過をご報告いたしました。その後、委嘱する方が決まりましたのでご報告をするものです。指導員名簿をご覧ください。委嘱いたします指導員はこれまでどおり12名で、表の下から5名までが新任の方です。任期は平成26年4月1日から、平成28年3月31日までとなっております。委嘱式は4月22日を予定しております。報告は以上です。

質疑応答)

中野委員) 以前も伺ったと思うのですが、これはどういう方々がなられているのかということ。自薦ですとか他薦ですとかいかがですが。

生涯学習課長) 基本的には、青少年指導員の活動といいますのは、現場でのワークショップですとか、あるいは調査活動ですとか、実務的な仕事ですとか、作業が中心となります。したがって、青少年活動に興味、理解している方のみならず、やっぱり実務ですとか作業可能な方、動ける方、あるいはフットワークの軽い方というのがどうしてもその条件になります。したがって、基本的には自薦、それから他薦も含めて、フットワークの軽い方を十分精査をさせていただいて、お願いをしているという状況です。ですから、この中には自薦、他薦、両方含まれております。

中野委員) わかりました。ありがとうございます。

濱名委員) 再任の方が非常に多いと感じます。こういう活動は、どちらかというとな任を多くされたほうが広くその活動をわかっただけで、みんながもう少し青少年のほうに意識が向くのではないのかと思いますが、いかがですか。

生涯学習課長) 今のご意見も全くそのとおりだと思います。ただ、1期2年ということで、例えば1期だけですと、やっぱり一回りしただけで、活動内容を十分把握する前に、あるいは新しいことを何かやろうとしてもなかなか進まないというところもありますので、新しい方にどんどん入っていただくといういい面もありますし、それなりの経験といいますか、委嘱期間が長いということもやはりいい面もたくさんございますので、全体的には長い方から新しい方、バランスよくお願いをするのがいいかなと思っております。ただ、今回はやはりお仕事も持ちながら受けていらっしゃる方もたくさんおられましたので、なかなかお仕事の関係で長く続けられないという方もおられましたので、最終的に5名の方が退任をされて、新たに5名の方をお願いをしたという経

緯がございます。

濱名委員) では、やることというのが決まり切っているわけではないのですね。年度ごとに、今回はあれをしようというアイデアが出てくるという形ですか。

生涯学習課長) 基本的に次年度の計画をするのは前年度に事業計画をするわけですが、例えばここで任期が終わってしまうと、かなり委員さんの構成が変わる可能性があります。その切りかえの段階で次年度の事業計画を立てるというのは実は非常に難しいところがございます。新しいことをやるには、任期の次の年に新しいことを計画していくというのがこれまでの通例でした。ですから、今回ここで新しく変わりますので、事業計画としては基本的には恐らく今年は前年度を踏襲していくのではないかと思います。ただ、来年度については、新しく入った方を含めて、新たな事業計画は出せていけるのかなという期待も含めて考えております。

濱名委員) ありがとうございます。

中野委員) 年齢構成はどのような感じになっていきますか。

生涯学習課長) 基本的には大体40代から60代まで、比較的バランスはいいと思います。新たになっていただいた方は比較的若い方が多いので、まさに仕事のほうも第一線でやっていらっしゃる方になっていただけておりますので、全体的なバランスとしてはとれているかなと思います。

中野委員) ありがとうございます。指導員という名だけに、指導的な立場に立てる方がいらっしゃるのには非常にありがたいと思います。ただ、やはりイベントとして新しいことをやろうとかということを考えるに当たっては、青少年に近い方もいらしてもいいのかなと思いました。

報告事項第5号 企画展「収蔵動物標本展」の開催について

郷土資料館長) 資料をご覧ください。今回の展示は、郷土資料館 平成26年度 第1回企画展であり、平成26年4月27日日曜日から6月15日日曜日まで、41日間の開催を予定しております。郷土資料館で保管している剥製や骨格標本などの動物標本は、当該の動物が、大磯町を中心とした資料が習得された地域で生息していたことを示す貴重な資料であります。今回の展示では、哺乳類本剥製、鳥類本剥製、爬虫類・魚類本剥製、全身骨格標本の4つのテーマで、資料価値の高い資料や近年受け入れた未公開の資料を中心に展示を構成し、当該地域の生物相を概観することを趣旨といたします。刊行物については、A4判のリーフレットを作成いたします。今回の企画展については4月号広報でご案内し、また、リーフレットの関係機関への配布やHPなどでも周知を図ってまいります。

質疑応答)

曾田委員) この資料展ですが、標本はどのような形で集められたのか、あるいはどなたかが寄贈したものなのか、その辺を教えてください。

郷土資料館長) 動物標本の場合、へい死体といいまして、死体の状態で収集することが基本でございます。収集方法につきましては採集するほか、外部から通報やお持ち込みいただくなどいろいろな場合がございます。また、剥製資料の場合ですと、剥製になった状態で寄贈されたものもございます。

曾田委員) そうすると、この大磯という地域から外れた、生息している部分では違うものもあるということになりますか。

郷土資料館長) 地域としては、多くは大磯町で拾得されたものでございますが、町外の場合も神奈川県内を中心としておりますので、大磯及びその周辺とご理解いただければと思います。

曾田委員) わかりました。

濱名委員) 例えば、子どもを連れて見に行ったらとしまして、説明をしてくださる方とか、そういうのがあるとすごくおもしろいのですが、どのような形でお問い合わせすればいいですか。

郷土資料館長) 窓口でお問い合わせいただければ、ご案内申し上げることは可能です。また、担当学芸員が在席しているときでございましたら、より細かい説明ができるかと思えます。

濱名委員) そういう説明をしてもらえるとということを知らない人がすごく多くて、私がこんな話をしてもらったという話をしたら、おもしろそうだと行って足を運ばれた方もいます。こう言う事を広報で周知することはできますか。

郷土資料館長) 貴重なご意見として展示室の表示等の参考とさせていただきたいと思えます。

報告事項第6号 春季企画展「きらびやかな雛人形の世界」の実施結果について

郷土資料館長) 資料をご覧ください。今回の展示は、郷土資料館平成25年度 第7回企画展として、平成26年2月22日土曜日から4月6日日曜日まで、36日間にわたって開催いたしました。今回の展示は、郷土資料館で所蔵している雛人形を時代順に展示し、顔立ちや衣装の違いなどを鑑賞していただくほか、雛道具の優品など、人形に限らない、雛人形の世界を紹介する展示構成といたしました。また、資料記載に記載しております関連企画を実施いたしました。会期中の入館者は4,087人で、1日平均113人余りの方が来館されたこととなります。

その他

学校教育課長) 前回の定例会で報告させていただきました大磯町議会3月定例会の補正予算の内容でご質問がございまして、2月4日に委員にお配りしました補正予算の資料と、3月定例会の資料として予算額を変更している点があるかということでご質問いただきましたので、ここで回答させていただきます。変更した点については1点、中学校費の学校施設設備維持事業、光熱水費について変更しております。2月4日時点でお渡しした予算額としては70万円でしたが、最終的に財政課との調整の中で75万5,000円で議会へ提案しております。この1点が変更となっております。

中野委員) 中学校の光熱費ですか。

学校教育課長) そうです。中学校費の光熱水費です。

中野委員) 大磯と国府と両方ですか。

学校教育課長) はい、そうです。

中野委員) ありがとうございました。

教育部長) 次回の定例会は5月22日木曜日午前9時から大磯町郷土資料館で行います。午後からは国府中学校の学校訪問がございますのでよろしくお願ひします。

(閉会)

会議の経過を記載し、その相違ないことを証しここに署名する。

平成26年5月22日

委員 長 _____

委員長職務代理者 _____

委 員 _____

委 員 _____